

講義名	企業論（経営学科）		
科目区分	学科専門 展開		
担当教員	上田 義朗		
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 2時限	授業形態	
履修開始年次	3年生	単位数	2
		備考	

主題と概要			
現代の代表的な企業形態である株式会社について、その組織・構造・機能を理解・検討します。そのために企業論の中心的な論点である企業統治（コーポレート・ガバナンス）に焦点を当てて講義します。			
以上のために教科書を輪読し、それについて解説し、討論します。同時に新聞や雑誌の資料を配付し、具体的な事例を分析します。			

到達目標			
1. 株式会社の構造や組織について理解・説明できる。			
2. 日本のみならず米国・ドイツ・英国・北欧・韓国・中国のコーポレート・ガバナンスの動向と課題が理解できる。			
3. 今後の日本企業の株式会社の将来像について自分の意見を述べるができる。			

提出課題			
レポートを何度か提出してもらいます。			

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック			
レポートの内容について講義中に発表してもらって、それについて口頭でコメントを述べたり、相互に議論したりします。このことでレポートに対してフィードバックします。			

評価の基準			
期末試験を実施します。その評価に加えてレポートや発言の得点を総合評価します。			

履修にあたっての注意・助言他			
受講生が多い場合、マークシート形式の期末試験を実施します。講義中にSNSを積極的に使用して、専門用語や企業について調べて発表してもらいます。			
発言を評価します。			

教科書				
.よくわかるコーポレート・ガバナンス.	風間信隆編著	ミネルヴァ書房	2,600円＋税	978-4-623-08399-2

プリント資料及び参考文献				
適時、プリント資料を配付します。				
参考文献 講義中に指示・紹介します。				

授業計画				
1. 株式会社とは何か				
2. 会社機関・・・株主総会・取締役会・監査役・各種委員会				
3. 株式会社と経営者支配・・・所有と経営の分離、所有と支配の分離				
4. ステークホルダーと企業経営				
5. 日本におけるコーポレートガバナンスの歴史と現状				
6. 同上・・・株式持ち合いの生成と崩壊				
7. 同上・・・企業不祥事				
8. コーポレートガバナンスの国際比較・・・米国・英国・ドイツ・北欧				
9. コーポレートガバナンスの国際比較・・・韓国と中国				
10. 株式会社と資金調達・資本コスト				
11. M&A				
12. 企業の社会的責任（CSR）と企業倫理				
13. 機関投資家の株式投資と行動規制				
14. 日本企業の現状と課題				
15. 総括				

授業形態（アクティブ・ラーニング）	
ア：PBL（課題解決型学習）	
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	
○ウ：ディスカッション、ディベート	
エ：グループワーク	
オ：プレゼンテーション	
カ：実習、フィールドワーク	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間	
予習・・・教科書を読む。講義での質問に答えられるように準備する。回答すると得点になる。30分～60分	
復習・・・教科書とノートの内容を整理する。それについて次回の講義での質問に回答する。それが得点になる。30分～60分	

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述	
発言に得点を与える。	
専門用語や不明な事例を調べるために講義中にスマホの利用を勧める。	

実務経験の有無及び活用	
実務経験あり。	
1. 株式投資ファンドの組成（岩井コスモ証券、販売終了）	
2. 海外進出のコンサルティング（現職：日本ベトナム経済交流センター副理事長）	
3. 複数業種の国際的なビジネスマッチング（現職：ネパールHRDIC社顧問、合同会社TET）	
・・・研究上の論理的な整合性と、実務上の非論理的で柔軟な現実との「乖離」について、その理由や背景についての私の経験と知見は、受講生の指導に活用できる。	

備考	
講義中の発言を高く評価する。	
質問は、講義中または前後、さらにメールで対応します。これも得点を与える。 Yoshiaki_Ueda@red.ums.ac.jp	